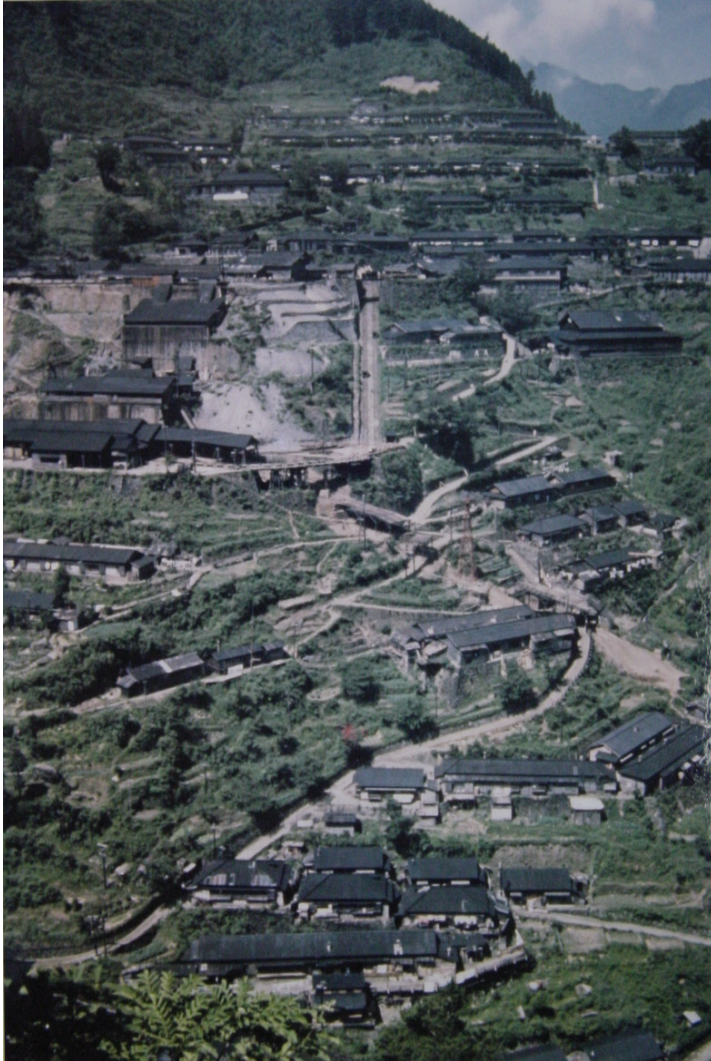




31  
まいん

とうなるしゃたくあと  
**東平社宅跡**  
すべりざかしゃたくあと  
**辻坂社宅跡**

私たちのまち  
郷土新居浜の原風景  
東平



東平地区から辻坂地区一体の風景

昭和34年(1959)撮影 別子銅山記念館所蔵

すべりざかしゃたく  
**辻坂社宅**

の名前の由来は、東平社宅からさらに下部地区の社宅です。辻坂という名前は、この場所が地形的に日照時間が短く、特に冬季に積雪が根雪となって残り、坂道でよく滑ったことから由来とされています。



実物大に復元された東平社宅

とうなる  
**東平**

地域の社宅は、明治35年(1902)の第三通洞の開通により、徐々に建設されはじめ、明治38年～明治39年にかけて完成したと言われています。

とうなるしゃたく  
**東平社宅**

には上東平と下東平がありました。大正10年(1921)11月9日時点では上東平と下東平の合計戸数は116戸でした。

また、その境界線は、学校から配給所までを上東平といい、索道下の落下受の道下の長屋までを下東平といいました。

東平社宅は6畳1間の家が5軒つながった長屋のような構造でした。

また、そのほとんどが備員すなわち職員の社宅で係員以上の人が住んでいました。

現在は、基礎のコンクリートを生かし、骨組み(スケルトン)で実物大に復元されています。一部は屋根も付けられています。かまどや共同炊事場も残っていて当時の様子を伺わせています。坑夫の社宅と比べ広い作りとなっていました。



かまど跡の様子

辻坂には大正10年現在で、51戸の労働者の社宅がありました。また、郵便局もありました。

ところで、端出場から東平街道を東平へ上がってくる際、初めに到着する場所でもあったため、行商がよく来ていました。

